☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１６６　　平成３１年１月２３日

❀　毎月２３日は「福岡市 子どもと本の日」です　❀

～　子どもの読書活動を推進しましょう　～

福岡市子ども読書フォーラム

１２月８日（土）は，南区のアミカス(男女共同参画推進センター)を会場に「福岡市子ども読書フォーラム」を開催しました。このフォーラムは，各方面で読書活動に携わる市内１０の団体・学校等の企画・運営により実施しています。

今年は，朝方，少し肌寒かったのですが，当日は約５２０人の家族連れ，生徒，子ども，読書に関心のある大人などが来場しました。どのブースも来場者が楽しむような工夫がしてあり，笑顔や歓声がたくさん見聞きされました。また，来場者が本を手に取り，親しんでいる姿が多くありました。

本の世界へようこそ！（福岡市立中学校）

福岡市立の中学校は，「読み聞かせコーナー」と「展示・工作コーナー」を担当しました。

「読み聞かせコーナー」は，壁面に三筑・香椎第一の中学校図書館の様子を写真や実際の掲示物で紹介し，その中で，曰佐，野間，香椎第一，長丘の各中学校の生徒と先生が読み聞かせをしました。作品を読む中学生の一生懸命さが，見ているこちらにも伝わってきました。

（読み聞かせをする中学生）

「展示・工作コーナー」は，高宮中学校美術部の生徒たちが担当をしました。美しい細工のしおりづくりを通して，子どもから大人まで楽しめるようにいろいろ工夫をしていました。小さい子どもに工作を教える中学生が，なんだかとても頼もしく見えました。

（工作をする子どもにていねいに教える中学生）

（しおりづくりに熱中する子ども）

高校図書館ってどんなところ？（福岡市立高等学校）

福岡市立の高校は，「おはなし編」と「わくわく編」の企画別に２部屋で行いました。

「おはなし編」では，「おはなしメドレー」を福岡女子高校が，音楽劇「三びきのこぶた」を博多工業高校が行いました。

「おはなしメドレー」の人形劇「うそをついた少年」では，生徒手作りの指人形の動きが工夫されていて，見ている人を感心させていました。ほのぼのとした絵が描かれた紙芝居も上演されました。

「三びきのこぶた」では，台本から衣装まで自分たちで作成したそうです。また，ふくろうが登場して話を盛り上げたり，おおかみが観客席の後ろから登場したりするなどして，演出を工夫していました。両校とも，劇が終わると，会場に入りきれないくらいの来場者から多くの拍手がありました。

（「うそをついた少年」の指人形劇を食い入るように見る親子）

（大勢の参加者の前できれいな声で歌う福岡女子高生）

（「三びきのこぶた」を熱演する博多工業高生）

（こぶたにやっつけられるおおかみ）

「わくわく編」では，博多工業・福岡女子・福岡西陵・福翔の４校が学校紹介，学校図書館紹介，「ヤングアダルトブックセレクト５０」などを展示しました。また，だれもが作れるように材料が準備された工作コーナーでは，気に入った作品を作り上げうれしそうでした。読み聞かせコーナーにもたくさんの参加者が集まり，楽しんでいました。

（「ヤングアダルトブックセレクト５０」の展示）

（紙皿工作をわかりやすく教える福翔高生）

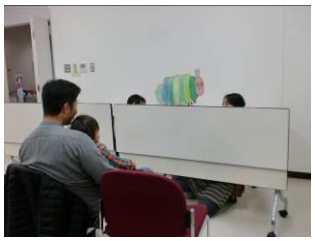
（すごろくづくりを優しく教える福岡西陵高生）

（高校生の読み聞かせを聞く，たくさんの参加者）

※ヤングアダルトブックセレクト５０：福岡市立高校の学校司書の先生が選んだ，中学生・高校生に読んでほしい本５０冊

小学校図書館においでよ！（福岡市立小学校図書館教育研究委員会）

市内の小学校で読書月間や読書週間で取り組んだＰＯＰなどを展示したり，しおりづくりやペープサート体験を実施したりしていました。家族でペープサートをしたり、しおりをつくったりして笑顔いっぱいでした。



（母親がペープサートを動かし，それを見る父子）

（しおりの紙に色をぬる女の子）

※ペープサート：話の登場人物などを紙で作り，それを割りばし状の棒につけ，話の展開にあわせて動かす紙人形劇

図書館のおはなし会がやってきた！（福岡おはなしの会）

総合図書館でおはなし会をしている皆さんが，「小さい子のおはなし会」「大きい子のおはなし会」「わらべうたであそぼう♪」を担当しました。

子どもたちの年齢に合わせた「おはなし会」では，お話（ストーリーテーリング）や絵本の読み聞かせに，子どもたちはすっかり夢中になっていました。また，「わらべうたであそぼう！」では，知らない人同士が手をつないで輪になって遊ぶという場面もあり，とても和やかな雰囲気でした。

（小さい子だけでなく，中高校生，大人も楽しむ読み聞かせ）　（本を見ないで語られる「おはなし」に聞き入る参加者）　（手をつなぎ輪になってわらべうたで遊ぶ参加者）

おうちのひとのおひざにのって赤ちゃんおはなし会（ブックスタートボランティア）

市内の各区で読み聞かせをしているボランティアの方々が，区ごとに時間を決めて担当しました。紙芝居では，前の方に小さい子どもたちが集まって見ていました。手遊びでは，子どもと一緒に大人も楽しんでいました。

（赤ちゃんを抱いて，左右にゆらゆらゆれるお母さんたち）　（紙芝居に近寄る子ども）　（手遊びで，一緒に腕を伸ばすまわりの大人）　（子どもも大人も読み聞かせに熱中）

お茶でほっとな交流を♪　（学校図書館よみきかせボランティアネットワーク）

市内の学校図書館で読み聞かせのボランティアをしている方々が，コーヒーやお茶を振る舞うブースを設けました。講座で紹介した本や自宅などで読んでもらいたい本を美しく展示していました。自由に何冊も本を手に取ってみたり，子どもに読み聞かせしたりしている姿が見られました。

（展示してある絵本を読む子どもたち）　（喫茶スペースでわが子に読み聞かせをするお父さん）　（「家庭で楽しむ読み聞かせ講座」で紹介したたくさんの絵本などの展示）

絵本コンシェルジュメンバーによるおはなし会（おはなしの会こぐまちゃん）

（読み聞かせに集中する参加者）　（知らない人同士で手遊び）

手遊びでは、絵本コンシェルジュの指示で知らない人同士が、にこにこしながら手を取り合っていました。なんだか見ている私も、うれしくなってきました。

福岡市総合図書館・各分館（「図書館を楽しもう！」）

福岡市総合図書館・各分館の司書の人たちが，展示だけでなく「お父さんによるおはなし会」「ビブリオバトル」などをしました。高校生が参加した今年のビブリオバトルは、来場者が多く、用意した椅子が足りなくなるほど多数の参加者がありました。「なりきり絵本キャラ」「なりきり図書館員」は，今年も大人気でした。

（かみしばいをするお父さん）

（ビブリオバトルする高校生）

（「なりきり絵本キャラ」の衣装を着たわが子を撮影）

（「なりきり図書館員」で，本の貸し借りを体験）

みんなおいでよ！おはなしひろば（福岡市公立保育所主任保育士会）

（折り紙をする来場者）

絵本の読み聞かせだけでなく、パネルシアター，エプロンシアター、折り紙あそびといろいろな活動を準備して、来場者を楽しませていました。

本屋さんがやってきた！（福岡県書店商業組合）

書店商業組合が、読んでほしい本や絵本をたくさん用意し展示していました。親子で本を選び、買い求めている人が多く見られました。

（商店組合が展示したいろいろな本）

生涯学習課の展示

生涯学習課が，小・中の新１年生のおすすめの本やスタンバード文庫の説明を展示しました。

（小学１年、中学１年のおすすめの本の展示）

来場者に人気の２つの催し

その１《子どもたちに大人気のスタンバード》

教育委員会のキャラクター「スタンバード」は子どもたちに大変人気でした。「スタンバード」の姿が見えると，子どもたちが集まってきて，体に触ったり握手をしたりしていました。

（スタンバードと楽しいふれあい）

その２《楽しみな景品》

５つのブースを回ってシールをもらった人は，書店組合や生涯学習課が準備した景品をもらいました。

（山積みされた景品）

２月生まれの文学者

佐藤　さとる（本名　佐藤　暁（さとる））**と「だれも知らない小さな国」**

神奈川県横須賀市　１９２８年２月１３日　生まれ　２０１７年　没

佐藤氏は，読むことと物語の筋を考えるのが子どもの頃から好きで，道を歩きなら寝ながら暇さえあれば話の筋を考えていましたが，書く方は全然だめでした。しかし，小学生全集などを精読し，いつかこの全集の話のような魂にひびくおもしろい話を書きたいと思っていたそうです。

１９４６年「童話」という雑誌に作品募集の記事を見つけ，「大男と小人」という題で応募したところ，その９月号で作品が活字になりました。

１９４９年春，旧制の工業専門学校建築科を卒業後，横浜市役所に入り「横浜体育新聞」の編集をしていましたが，新制中学校が発足し，教員が足りないということで数学の先生になりました。しかし，自分は人へ教えることに向いていないことが分かり，３年ほどで教師をやめ，１９５２年８月に学年別児童誌「銀の鈴」の編集部に移りました。

その編集部では，印刷の関係ですべての文字原稿を編集者の手で書き写していたため，佐藤氏は，当時活躍していた一流の児童作家の作品もほとんど書き写しました。この書き写しは，作家の文章のくせや作品の出来ばえを学ぶことができました。

１９５４年秋，実業之日本社に移り，今まで温めていた物語をもう少し上手に書きたいと思うようになり，暇を見つけては，「だれも知らない小さな国」を書き始めました。日本初のファンタジー小説と言われるこの作品は，何度も書き直しをしたため第３稿の決定稿ができるまで書き始めて足掛け５年かかりました。最初は自費出版でしたが，のちに講談社から出版され，毎日出版文化賞などを受賞しました。

佐藤氏の作品は，「コロボックル物語」シリーズ，「おばあさんのひこうき」（野間児童文芸賞，厚生大臣賞受賞）などあります。

辻村　深月（つじむら みづき）**と「冷たい校舎の時は止まる」**

山梨県笛吹市　１９８０年２月２９日　生まれ

辻村氏は，小さいころから絵本と一緒に漫画を読んでおり，物心ついた頃にはドラえもんを知っており，小学校に入学すると，図書館でいろいろな本を借りることができるのでうれしかったそうです。そして，小学６年で綾辻行人氏の「十角館の殺人」を読み，自分の中のミステリ観が究極の刷新するほど大きな影響を受けました。

山梨学院大学附属高等学校特進コースを卒業後，ミステリ研究会があったため入学した千葉大学教育学部を２００２年に卒業しました。そして，作家になる夢を実現するため地元の山梨の県庁村会事務所に就職し，夜や土曜，日曜に執筆していました。

デビュー作の「冷たい校舎の時は止まる」（メフィスト賞受賞）は，大学の受験勉強がいやで，小説の世界で高校生活を書いてみたくなり，書き始めた作品でした。この作品は高校在学中に全体の半分ほど書き，その後，１章９０枚を２週間ぐらいのペースで書き，大学４年間で書き上げました。就職後，この作品を削ったり，膨らませたりして３年目に完成しました。

２０代半ばで仕事量が増え，残業も多く出張がある大変な中，毎月１００枚ぐらいは執筆を続け，２００８年に専業作家になりました。２０１２年に「鍵のない夢を見る」で直木賞を受賞しましたが，山梨県での受賞は林真理子氏以来２６年ぶりだったため，笛吹市庁舎には垂れ幕が掛けられ，「山梨日日新聞」では，多数の記事や特集が組まれたそうです。

辻村氏の「辻」は綾辻氏の「辻」から，「深月」は綾辻氏の作品の登場人物からの名前です。作品は，「ツナグ」「かがみの孤城」（２０１８年本屋大賞受賞）など多数あります。

□図書館員のひみつの本棚《No.153》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが,毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は，小学校中学年向けの本です。大学生の兄，小学校３年生の女の子，おむつがとれていない弟が，両親が不在の１週間を過ごすお話です。きょうだいがまき起こすいろいろな出来事で楽しく読める本だと思います。

☆ 今月の本

『世界一の三人きょうだい』

グードルン・メプス／作　はたさわ　ゆうこ／訳　山西　ゲンイチ／絵

徳間書店　2016年　1512円

♪ 福岡アジア美術館「２月の案内」

＊＊＊＊＊＊＊

＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

１０日（日），１２日（火），２４日(日)，２６日（火）

・時　間　１１：３０　～１２：００　，１３：００～１３：３０

・場　所　７階「キッズコーナー」（申し込み不要）

♪ 福岡市総合図書館「２月の案内」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊毎月のおはなし会

２日（土），　３日（日），　９日（土），　１０日（日）

１６日（土），　１７日（日），　２３日（土），　２４日（日）

・時　間　**土曜日**：　２日，９日，１６日

１４：１０～１４：２５　赤ちゃん向けおはなし会

１４：３０～１４：５０　幼児向けおはなし会

２３日

１４：３０～１５：００　幼児から小学生向けおはなし会

日曜日：　３日，１０日，１７日，２４日

１４：３０～１５：００　幼児向けおはなし会

１５：１５～１５：４５　小学生向けおはなし会

・場　所　「こども図書館　おはなしの家」

☆ あとがき

１２月８日の読書フォーラムでは，各団体だけでなく，参加した中・高校生も，いろいろなブースで一生懸命来場者に対応していました。また，会場の階段や廊下ですれ違う時に，「おはようございます」と，気持ちよいあいさつをくれました。学校でのあいさつ指導の成果が感じられました。気持ちのよい一日でした。

発　行：福岡市教育委員会　生涯学習課
電　話：０９２－７１１－４６５５　　ＦＡＸ：０９２－７３３－５５３８

図書館員のひみつの本棚　第１５３回

今月はきょうだいの物語です。

『世界一の三人きょうだい』

グードルン・メプス／作　はたさわ　ゆうこ／訳　山西　ゲンイチ／絵
徳間書店　2016 年　1512 円

＜お勧め年齢＞

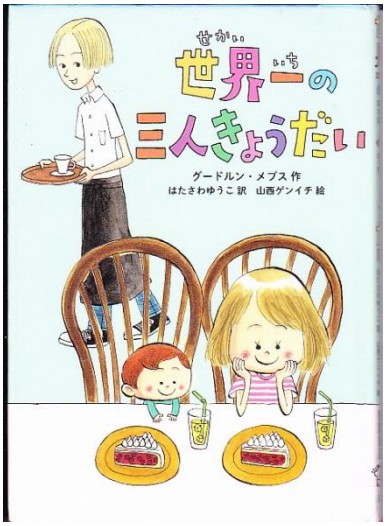
乳幼児――　低学年☆☆　中学年☆☆☆　高学年☆　中学生――
高　校――　一　般――

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

‹本の紹介›

パパとママがおばあちゃんの引越しの手伝いで１週間留守にするので、小学校３年生の女の子マキシとまだおむつをしている弟のレオンは、その間大学生で一人暮らしをしているトミーお兄ちゃんのアパートで暮らすことになりました。パパとママは二人と離れるのをとても寂しがっていましたが、マキシは平気。お兄ちゃんのアパートでのスペシャルな１週間が始まるのです！

‹子どもに手渡す時のポイント›

最初から最後まで愛情あふれる優しい物語です。ドイツの物語ですが、日本の子どもたちでも違和感なく読み進められます。ジェットコースターのような展開はありませんが、子どもの心の動きを素直に描いているストーリーは、読んでいる子どもが、主人公と一緒にドキドキしたり楽しんだりできます。ぜひ中学年の児童に手渡してほしい１冊です。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。